

I 世界史B問題

タイのアユタヤ朝に圧迫されていたマラッカ王国は、15世紀初めに始まる鄭和の南海遠征を機に明と冊封関係を結んで朝貢貿易を行い、アユタヤ朝に対抗した。一方で王がイスラーム教に改宗してムスリム商人の拠点ともなり、ジャワ島のマジヤパヒト王国に代わって、マラッカ海峡を押さえてインド洋交易圏と南シナ海交易圏を結ぶ中継交易やモルッカ諸島からもたらされる香辛料の貿易で繁栄したが、16世紀に、香辛料を求めて来航したポルトガルに占領された。マラッカ王国のイスラーム化以後、その交易ルートに乗って東南アジアにイスラーム教が広まり、スマトラ島にアチェ王国、ジャワ島にバンテン王国やマタラム王国などのイスラーム国家が成立した。（300字）

Ⅱ 世界史B問題

A

a	ムアーウィヤ
b	サラディン (サラーフ=アッディーン)

(1)	アッシュルバニパル
(2)	ユダ王国
(3)	エフタル
(4)	十二イマーム派
(5)	ティグリス川
(6)	トゥールーン朝
(7)	カリフ
(8)	イブン=ハルドゥーン
(9)	サファヴィー朝
(10)	ギリシア
(11)	ロンドン会議
(12)	イラク王国
(13)	サイクス=ピコ協定

B

c	雍正
d	大躍進

(14)	一条鞭法
(15)	墾田（圩田・湖田）
(16)	『農政全書』
(17)	南洋華僑（華僑）
(18)	李自成
(19)	地丁銀制
(20)	保甲法
(21)	トウモロコシ
(22)	洪秀全
(23)	盛京
(24)	扶清滅洋
(25)	人民公社
(26)	改革・開放政策

Ⅲ 世界史B問題

アテネでは、ペルシア戦争で軍船の漕ぎ手として活躍した無産市民の政治的発言力が増し、ペリクレスのもとで市民の政治的平等が徹底された。国政の中心機関の民会は成年男性市民全員が参加する直接民主政で、行政の役職は抽選で選ばれた。一方ローマでは、国政の中心機関である元老院やコンスルなどの要職を貴族が独占していたが、重装歩兵として活躍する平民が不満を持ち、前4世紀のリキニウス・セクスティウス法で2名のコンスルのうち1名は平民から選出されるようになり、前3世紀のホルテンシウス法では、平民と貴族が法的に対等となった。しかし、有力な平民が貴族と合体したノビレス層が形成され、彼らが元老院の実権を握るようになった。（300字）

Ⅳ 世界史B問題

A

(1)	(ア)	ロンバルディア同盟	(イ)	托鉢修道会
(2)	『ローマ法大全』			
(3)	(ア)	イブン=シーナー (アヴィケンナ)	(イ)	血液循環説
(4)	カール4世			
(5)	プラトン			
(6)	ヴィッテンベルク			
(7)	(ア)	ピサロ		
	(イ)	イギリスのカルヴァン派で、イギリス国教会の改革を不十分と考え、さらなる改革を求めた。		
(8)	(ア)	チャールズ2世	(イ)	ニュートン
(9)	ウォルポール			
(10)	「ドイツ国民に告ぐ」			

B

(11)	ダービー		
(12)	ワット		
(13)	水力（人力）		
(14)	インド		
(15)	マンチェスター		
(16)	ナポレオン 3 世		
(17)	カルボナリ		
(18)	フィラデルフィア		
(19)	チェチェン		
(20)	アルザス・ロレーヌ		
(21)	ザール		
(22)	ルール		
(23)	(ア)	ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体 (E C S C)	(イ) イタリア (ベルギー・オランダ・ルクセンブルク)
(24)	サッチャー		